

国際ドイツ語オリンピック(IDO) 2018 参加報告

小沼和子

1. 第 10 回国際ドイツ語オリンピック概要

10 回目となる今回の国際ドイツ語オリンピック（以下 IDO）は 2018 年 7 月 15 日から 7 月 28 日までドイツ、バーデン・ヴィルテンベルク州、フライブルクで開催された。今回は「Dabei sein !」が大会のテーマである。参加国は 74 ヶ国、参加生徒数は 140 名で過去最大の大会となった。参加資格は以前よりも厳しくなり、年齢は開催時に 14 歳から 17 歳かつ過去に本選に出場歴がない者でなければならない。高校 3 年生でも IDO 開催時まで 18 歳に到達すると参加資格を失う。日本の学校事情に照らすとかなり厳しい年齢制限である。参加者は A2、B1、B2 のレベルに分かれて競技を行う。日本からは A2 と B1 にそれぞれ 1 名ずつ参加したが、B1 レベルで日本の生徒が IDO に参加するのは今回が初めてとのことであった。

引率教員として参加した私の目からみた IDO の様子を以下に記す。

2. 日本国内行事

日本代表国内選考会は 2018 年 3 月 21 日に東京ドイツ文化センターで行われた。ドイツ語でのエッセイを含む書類選考を通過した 8 名の生徒たちは日本代表の 2 枠を読解、聞き取り、作文の筆記試験、日本語の面接、グループでの口頭試験の総合成績で競った。この 8 名には高等専門学校の学生も含まれていた。高等専門学校の学生は年齢制限のため残念ながらドイツでの本選には参加できなかったのだが、ドイツ語学習の成果を国内選考会で発揮していた。選考会ではドイツで行われる本選への参加者 2 名と特別賞 1 名が選出された。

出発の約 2 週間前には東京ドイツ文化センターに於いて壮行会が開かれ、前回の IDO の参加生徒及び引率教員から体験談を聞き、アドバイスをすることができた。IDO の競技の概要が把握できたことは参加者にとって非常に有益であった。

3. 宿泊施設

フライブルクでの滞在場所は前回の IDO とは異なり、生徒用と教員用の宿泊施設はかなり離れていた。生徒は郊外のユースホステルに、教員は市の中心部のホテルに滞在した。このホテルからユースホステルまでは交通機関を使って 30 分ほどかかった。生徒の活動場所は主にこのユースホステルと近隣の UWC（United World College）であり、教員は市の中心部にあるゲーテ・インスティトゥートで教員用のゼミナールを受けていたため、特別なイベントがある場合を除いて生徒たちの様子を窺い知ることができなかった。だがフライブルク自体が大きな町ではないため、生徒たちが市の中心部で競技のための調査等を行っている姿は時折見かけることができた。



4. 本選

開会式は7月16日月曜の午後、市の中心部の市庁舎前広場において、フライブルク市長、ゲーテ・インスティトゥート所長、IDO 統括長を迎えて盛大に執り行われた。当日は天候にも恵まれ、生徒及び教員ともによいスタートを切れた。ステージ上では地元の高校生のジャズオーケストラが演奏し、歓迎ムードを盛り上げた。

本選においては生徒たちはそれぞれの語学レベルに合わせて課題を3つ与えられる。一つ目は「コラージュ」、二つ目は「プレゼンテーション」、三つ目は「クイズ」である。それらの課題に対する成果物をさまざまな観点から8名の審査員が点数化し、合計点で順位を決定する。



5. 表彰式

表彰式は大会の最終日7月27日金曜の午前中に Ballhaus という会場で行われた。

各語学レベルから上位3名とその他フェア賞1名、計10名が表彰された。受賞者の出身国は下記の通りである。

A2 : 1 位タイ	2 位カメルーン	3 位中国
B1 : 1 位リトアニア	2 位チリ	3 位ボスニア・ヘルツェゴビナ
B2 : 1 位ウクライナ	2 位ブルガリア	3 位中国
フェア賞 : ノルウェー		



6. 各国紹介（Länderabend）

IDO のプログラムで本選での活動の以外に特筆すべき行事がある。それは生徒たちが自国を自分たちなりの手法で紹介する Länderabend である。今回の大会ではこの行事は第一週目の木曜の夜、7月19日に UWC のホールで開催された。夜8時開演であり、さらに74ヶ国分の上演があったため、終演は午前0時近くになった。

1ヶ国あたりの持ち時間は90秒で、日本チームは2人がそれぞれ法被と浴衣を着て盆踊りを紹介した。



7. 引率教員用ゼミナール

生徒が本選に取り組んでいる間、教員はゲーテ・インスティトゥートが開催するゼミナールに参加した。屋外活動では市内の観光の主要ポイントを問題を取りながら回るオリエンテーリング式の課題を解いたり、学校訪問を行った。私が訪問したギムナジウムはこれまで訪れたことのある中で最もモダンで開放的な雰囲気のある学校であった。理系分野に重点を置いているとのこと、副校長の案内で実験室や実験準備室も見学した。

フライブルクは環境都市として世界的に有名である。ゼミナールプログラムでは太陽光エネルギーを有効利用している施設をいくつか見学する機会に恵まれた。私が参加したコースでは大学図書館とホテルを見学し、市のエネルギー政策の一端に触れることができた。



8. おわりに

今回の IDO では生徒の活動の様子を把握できる機会が少なかったが、時折会う彼らの顔が日数を重ねるごとにたくましくなっていくのを感じて大変うれしく思った。初日の開会式では長旅の翌日ということもあり、少々疲れているようであったが、最終日の表彰式時の時にはたくさんの友人と互いにドイツ語でやり取りをしているのを見て、彼らも有意義な時間が過ごせたのだと確信した。このように多くの国々の同世代の仲間と時間を共有できる機会は滅多にない。この経験を糧にしてドイツ語学習のみならず、他分野でもさらなる飛躍を彼らには期待している。

生徒のみならず私も意義深い 2 週間を過ごせた。この滞在で得た成果を今後のドイツ語授業に活用していきたい。

この機会を与えてくださったゲーテ・インスティトゥート及びすべてのスタッフに心より感謝申し上げます。

なお次回の IDO は 2020 年にドレスデンで開催される。ドイツ語を学習している高校生には是非奮って IDO 参加に挑戦してみたい。

